

友の会通信

洋学の歴史を楽しく学ぶ
津山洋学資料館友の会

2022 May No.11



グリーンヒルズの日蘭修好 400 周年記念花壇（2 ページに関連記事）

CONTENTS

第 75 回文化講演会・令和 4 年度総会について	2
令和 4 年度前期企画展を開催しています みなさんご覧になりましたか？ 日蘭修好 400 周年記念花壇のチューリップ	
友の会のあゆみ ⑦	3
トピックス	4
資料館細見 植栽ボランティア活動を実施しました！ 薬草の小径から ⑧	
編集後記	

第75回文化講演会・令和4年度総会について

4月30日(土)、友の会が後援する第75回文化講演会が開催されました。花王株式会社花王ミュージアム館長の引地聰先生を講師としてお招きし、「日本石鹼製造の始まり 日本における石鹼製造業の勃興と発展」の演題でご講演いただきました。

宇田川榕菴は、日本で最初に近代的な手法で石鹼製造に挑みましたが、今回の講演では、そうした蘭学者の挑戦を足掛かりに、化学と技術の視点から、どのようにして日本に石鹼産業が根付き、発展していったのか、日本石鹼産業の歴史についてお話しいただきました。

講演会に引き続き、令和4年度友の会総会を開催しました。新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて、令和2年度総会も、令和3年度総会も中止となり、書面審議等による対応が続いていましたので、今年度は3年ぶりとなる対面での開催でした。

会員の皆さんに審議いただき、令和3年度の事業および決算報告、令和4年度の事業計画・

予算案について、原案の通り承認されました。

今後の感染状況を見ながら、今年度も様々な事業を進めていきます。会員の皆さまへは、随時ご案内や「友の会通信」などで事業の状況をお知らせしますので、お誘い合わせの上、ぜひご参加ください。

引き続きご理解とご協力をお願いします。



総会で挨拶する小原龍二会長

令和4年度前期企画展を開催しています 津山洋学の名品展 会期：3月19日(土)～6月25日(日)

常設展示には並んでいないけれども、津山の蘭学・洋学を語るうえで貴重な資料のほか、異国文化への関心や明治の文明開化を物語る興味深い資料を、「浮世絵に見る異国情緒」、「蘭学者のスクラップブック」、「描かれた黒船来航」

など小テーマに沿って紹介しています。

収蔵資料の中から選ばれた津山洋学の名品は、どれも見応えがあります。資料をめぐる当時の時代背景に思いをはせながら、あなたの好奇心をくすぐる一品を見つけてみませんか。

みなさんご覧になりましたか？

日蘭修好400周年記念花壇のチューリップ

この花壇には、2000(平成12)年の日蘭修好400周年を記念して、オランダから贈られたチューリップの球根が植えられています。

1997(平成9)年10月、幕末の幕府オランダ留学生として、ライデンに学んだ津山出身の津田真道を顕彰するため、かつての津田の恩師であった、フィッセルング教授旧邸に、顕彰プレートが設置されました。

この記念事業のきっかけとなったのは、1986(昭和61)年1月、友の会が主催した第1回「オランダ料理の夕べ」でした。そこから始まったオランダ大使館との交流が、ライデン市との友好交流にむすびついていくのです。



友の会も携わったライデン事業のつながりで整備されたグリーンヒルズの花壇
(レストラン THE HILLS HOUSE TSUYAMA の前)

友の会創立 40 周年を記念して
 未来に向けて記録に残しておきたい
 ～あんな出来事・こんな出来事～

友の会のあゆみ ⑦

友の会発足からの 40 年を振り返り、下山顧問から思い
 出深いお話を伺っています。「友の会のあゆみ」の第 6 回(第
 10 号掲載)では地元津山にある箕作家墓所の整備事業につ
 いてお話しいただきました。7 回目となる今回は、京都大学
 の久原躬弦胸像の修復事業についてお話を伺いました。



▲ 2010 年の研修バス旅行
 2003 年の胸像修復 ▶



小林圭子編集委員 津山出身の久原躬弦は有機化学研究の先駆者として知られています。京都帝国大学 4 代総長にも就任された方ですが、その整備事業とはどのような内容だったのでしょうか？

下山純正顧問 京都大学には久原躬弦の胸像があります。当初は構内のいい場所に建てられていたのですが、その後、理学部裏の陽の当たらない所に移設されました。元々ブロンズで出来た胸像でしたが、戦時中の金属供出によってセメント製になってしまいました。私が京大に見学に行った 1990(平成 2)年には、針金にコンクリート造りでひびが入っているし、大学紛争の時に眼鏡が壊されたらしく、ちよつと悲惨な事になっていましたね。

渡部紀子編集委員 それはほうつておけない状態といえますね。

下山 そうなんです。郷土の偉人によさわしい胸像として、何とか修復したいと常に思っていました。2003(平成 15)年に実施された日本化学会の創立 125 周年の記念事業の準備で、実行委員のひとりであった京都大学の植村榮教授が洋学資料館に調査に来館された時、「久原躬弦の胸像を津山

洋学資料館友の会が修復したいと思っているんだ」という希望を伝えました。その後、紹介された理学部に出向き、嶋嶋武忠事務長にお願いしたら、さっそく総長補佐の西本清一教授に伝わり、総長の了解をいただけた、というわけです。

渡部 思いは通じる！ですね。

下山 洋学資料館前の胸像をたくさん手がけられた田中彰さんに修復の専門家を紹介してもらい、夏休み期間中に修復しました。ブロンズ色にして眼鏡も特注で作ってもらいました。建つた当時のようにきれいな姿に戻したんですよ。

小林 その時の嬉しさは格別だったでしょうね。まさかそれで終わりではないですよ？

下山 そうですね。若かった私は何人かの教授に「京都大学には、久原躬弦先生の机などがまだ残っていると聞いているのですが、今どうなっていますか？」と尋ねたんです。さっそく探してもらったのですが、今はもう無いらしいということでした。しかし、久原躬弦の後継の大須賀篤弘教授が、久原先生の遺品を受け継いで保管しているという情報を得ました。「それはいいお話ですね」と話をしていたら、「京都大学

にあるより、津山洋学資料館にあった方がいのではないだろうか。これを機会に寄付しなすよ」となつたのです。

この時、「講義録」や「眼鏡」など 97 点もの遺品を寄贈していただいたのです。おまけに後日、胸像修復についての感謝状もいただけることになり、当時の友の会会長の藪木清美さんと私で総長室へ出向き、長尾真総長から感謝状をいただきました。

渡部 下山顧問の行動はいつも大胆ですが、情報をたくさん持つておられるから会話も弾むし、その後の展開にわくわくさせられます。

下山 (笑) 洋学資料館友の会の活動を通じて、洋学資料館は実質的に資料を増やしているわけです。その後、京都大学では理学部の 6 号館をきれいに建て直しました。その時には、久原躬弦胸像は 6 号館の中庭の陽の当たらずてきな場所へ移設されています。

小林・渡部 良かったですね。

下山 2010(平成 22)年には、友の



京都大学の総長室において記念撮影
 下山純正館長 長尾真総長 藪木清美会長

会の研修バス旅行で京都大学のキャンパスを散策するという企画を立てました。大学の関係教授の皆さんが本当に気持ち良く協力してくださり実現しました。久原躬弦の胸像を友の会で修復したことで京都大学に研修バス旅行に行くことができました。植村教授に直々にキャンパス内を案内してもらえたいんですよ。

小林 その上、感謝状をいただき、遺品を多数寄贈していただきました。本当にすごい展開ですね。文章にすると簡単に説明出来てしまいますが、人と人のめぐり会いとつながりがいかに大切か教えられるエピソードでした。今回も興味深いお話をありがとうございます。

さんデジのコラム

「美作津山洋学散歩」開始！

山陽新聞社のサイト「さんデジ」で、「美作津山洋学散歩」というコラムが4月から始まり、小島徹館長が執筆しています。史跡を訪ね歩きながら、洋学者たちの足跡を紹介するとのこと。月1回の更新が楽しみです！

さんデジ コラム 検索

トピックス

資料館 細見
お医者さんに叱られる？！



「仕事である。入ってはならぬぞ！」え〜っ?! いまの誰の声?! 思わず辺りを見回してしまおう。皆さん知っていますか? ジーっと見ていると、お医者さんに叱られるのを。ここは「ある医家の調査の間」という展示。通称「山田純造人形」が、薬研や薬箆筒に囲まれた部屋で熱心に薬の調査をしています。ついつい興味を惹かれて彼に近づき過ぎると注意されるのです。在村医の調査の間を復元したこの部屋は常設展示の一番奥まったところにあります。学芸員さんによると、近年流行りの「声が出る展示」なのだそう。来館の節はぜひ覗き込んでみてください。

植栽ボランティア活動を実施しました!



4月24日(日)、集まってくれた10名の皆さんで、薬草の小径の草取りを行いました。作業開始直前まで小雨が降るあいにくの空模様でしたが、雨も止み作業もはかどりました。おかげさまで雑草も取り除かれ、見違えるほどきれいになりました。年数回、友の会有志で植栽ボランティア活動を行っています。作業日はまた「通信」等でお知らせしますので、ご都合のつく方協力よろしくお願いします。



ウツギ (空木) アジサイ科
5~6月頃に白い花が咲き、ウノハナ (卵の花) の別名があります。発芽期の葉や、9~10月頃の果実を乾燥させたものを煎じて利尿薬として用います。

薬草の小径から ⑧

編集後記

相変わらず続くコロナ禍。「もういい加減にして!」と叫びたくなくなっています。そんな中、間隙を縫って3年ぶりの「春季文化講演会(友の会後援)」と「友の会総会」が開催されました。この流れで「研修バス旅行」も実施できたかと願いますが、まだまだ厳しいものがあります。

これまで事業計画を立て準備はしたものの、直前になつては中止を余儀なくされることが多く、事務局の皆さんは大変です。こんな時ほど、会員の皆様から寄せられる「もう少しなので頑張つて乗り切りましょう」との励ましの言葉に、意を強くしています。

「友の会通信11号」をお届けします。

(S)

津山洋学資料館友の会通信 第11号

令和4年5月 編集・発行

津山洋学資料館友の会
事務局 〒708-10833
津山市西新町5

津山洋学資料館内
☎0868-233-3324